

副会長就任のご挨拶



羽多野 宏子

第5回定時総会において会員の皆様のご支援により副会長に就任させて頂き、感謝申し上げます。また本年度より副会長4名体制で臨み、各事業のすみ分けを明確にし、公益目的事業の活動の強化を図って参ることと致しました。私の役割は総務担当です。内容は 1 栄養ケア・ステーション関連 2 ヘルシー外食推進協議会関連 3 管理栄養士・栄養士業務相談 4 会員表彰その他を担います。新体制となった4人の副会長は藤原会長を補佐し、連携協力して事業を進めて参ります。会員の皆様のご協力よろしくお願いいたします。

少子高齢化時代、管理栄養士・栄養士を取りまく環境は、期待感はあるものの現実には未だ厳しい環境下に置かれているといえます。

平成30年度4月に診療報酬と介護報酬の同時改定の内容は、地域医療構想と地域包括システムの内容をさらに推し進めるものであり、私が勤務しております医療関連では、病院を高度急性期、急性期、回復期、慢性期と機能別に分け、その評価を厳格化し、在宅医療に向けての支援が円滑に行なわれる事を重点化するという診療報酬改定が行なわれ、又かかりつけ医としての外来診療が評価され地域包括ケアシステムの要となる訪問診療、さらには在宅終末医療へと重要視される改定となりました。このような状況下で（公社）大阪府栄養士会は3年間在宅栄養ケア受託事業を実施。参加人数920人（他職種含む）717名の修了者（内、管理栄養士501名）を送り出しました。しかし管理栄養士・栄養士が在宅医療・介護の現場で活躍できる環境づくりはまだ不十分と言えます。本年は在宅療養者における食を通じた健康支援推進事業を大阪府より受託し、これまで育成した人材・体制をいかした栄養ケア体制の充実を図るための計画をしています。（公社）日本栄養士会が目指す法改正を注視し、他職種同様自立した職務で社会貢献できる「食・栄養のプロ」として自覚し栄養ケア・ステーションの充実を目指し共に活動を上げていきましょう。



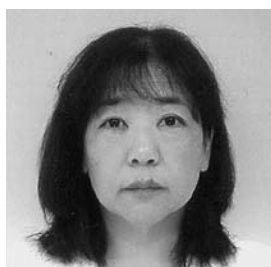
中野 忠雄

この度、副会長の大役を仰せつかりました中野です。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さんもご存知のように管理栄養士・栄養士を取り巻く環境もどんどん変わり、大阪府栄養士会もそれに対応すべく、日々多くの課題に取り組んでいます。最近では、「在宅療養における栄養ケア事業」として、「在宅栄養ケアスタッフ研修会」を行い、多くの参加者、修了者を出しています。また、大阪府栄養士会としての「登録栄養ケアチーム」の活動支援など新しい事業も取り組んでいます。私事ですが大学で教鞭をとっている身といたしましては、卒業生の就職先を見つけるのも大きな仕事の一つです。このような取り組みがいろいろな分野で管理栄養士・栄養士が輝いて働ける職場作りの一助になるのではないかと期待しております。また最近ではチームで働くことが多くなっています。他職種に負けない管理栄養士・栄養士になるには、生涯教育をはじめとする研修会などに参加して、個人のスキルアップを図ることも大事だと思えます。このような新人教育にも力を注ぎたいと思います。なお、私たち管理栄養士・栄養士に求められる知識やスキルは刻々と変化し、社会や時代のニーズに答えられるものではなくてはなりません。このようなニーズに答えられた時に組織の力が発揮できるような気がします。そのためにも機関誌「栄養大阪」や大阪府栄養士会のホームページの充実など、少しでも会員のためになる情報の発信にも全力で取り組みたいと思います。

病院部会で理事を10年、そのうち病院栄養士協議会の全国幹事を6年務めさせていただきました。その後参与、監事も経験させていただきました。この経験を生かして、少しでも会員が笑顔になり、管理栄養士・栄養士という仕事が一般の方にも知れ渡り、栄養士の地位が向上しますように微力ながら働きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

副会長就任のご挨拶



西村 智子

副会長という大役をもう1期務めさせていただくことになりました。

副会長としてはまだまだ皆さんのお役に立てておらず、反省しています。

私は34年間医療という現場で働いてきました。働き始めたころは診療報酬の意味さえ解らず、ただただ毎日早起して厨房で働いていました。何年か働いて少しずつ病院における栄養士の立場や、患者さんのために食を通して何ができるかが仕事なんだということを理解できるようになりました。病院の食事は“まずい”のが当たり前でうす味が求められ、栄養を身体の中に取り入れてもらうことより、献立上の計算値ばかり気にしていたころから考えると、その方のそれぞれの状況に合った美味しい食べ物をいかに作るか、それが一番だと気づきました。最近は介護予防や居家で療養されている方への栄養管理も求められるようになり、医療や福祉などという垣根をなくし、管理栄養士、栄養士が一丸となってシームレスなケアを行っていくことが使命となってきました。管理栄養士、栄養士の基本は栄養予防から始まったという説もあるようで、本来のあるべき場所に戻ってきたのかもしれない。とはいえ、私は管理栄養士・栄養士は医療の中や福祉の中でも本当に大変なこと、それぞれの施設や部会で皆さんが頑張っていることを理解しているつもりです。一人で頑張っている人、施設の中のそれぞれの立場の方に誤解されたり理解してもらおうと頑張っている人、悔しくて涙を流しながら仕事をしている人、私もいろいろ経験しました。思い出しても悔しいと思うことはたくさんあります。でも患者さんや家族にありがとうと言われたり、嚥下食を考えて食べられるように回復したり、楽しい、嬉しいこともたくさん経験したことも事実です。そして周りにたくさん同じ思いをした仲間、栄養士会で知り合うことができ、今の私が居ます。どうぞ一人で悩まず、栄養士会でみんなで管理栄養士・栄養士の未来を作りませんか。私が最近救われた絵を載せます。鰹の絵です。



前田 浩史

平成30年度の総会におきまして理事に再任され、副会長に就任することとなりました。

世界情勢がめまぐるしく変化する中で、これからの日本は大変厳しい状況におかれていることを、メディアが日々伝えております。輸出貿易で伸びてきた日本経済が低迷を迎え、技術力だけを頼りに海外と向き合わなければならない国と聞きますと、日本の将来の経済力がたいへん心細く、期待ができなくなります。

英国の有名な大学の研究で、将来生き残れる職種に栄養士はいいところにランキングされていると聞きましたが、AIの技術が目覚ましい開発を続けるなかで、今のシステム運用化が更に進み、個性を失った管理栄養士・栄養士が将来においても業務を遂行し、存在し続けられるか、不安を払拭することが出来ません。

私は長年、治療栄養学が中心となる病院で働いてまいりましたが、同じ職場で時間を重ねただけの、とても経験値に乏しい管理栄養士であります。今は管理栄養士・栄養士を志す学生と共に、とても充実した学園生活を楽しんでおりますが、今時の学生の将来の希望は、食品開発に従事したい、患者さんや高齢者の方に栄養指導をしたい、病院で多職種と共にNSTに従事したい。といった答えがほとんどで、献立管理や食事管理業務に興味を示す学生が少なくなっているようです。

経験の少ない私が申し上げるのは心苦しいのですが、これからの管理栄養士・栄養士が生き残るためにも自由な発想と個性が活かされた、食と健康管理を科学できる職人が求められていると思います。将来に夢のある仕事をめざして、会長のもと会員の皆様と共に、大阪府栄養士会の運営に努力してまいりたいと思いますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。